

令和6年度 呉市川尻町敬老会
第2部アトラクション ～神楽～

し ょ う き

鍾 馗

～ 伊賀和志神楽団 ～



あらすじ

中国の伝説によるもので登場人物は神と鬼の2人だけである。
備後風土記には、みすぼらしい姿の武塔神が一夜の宿を頼み、
温かくもてなした家族に「茅の輪」を腰にまくよう言い残し、村中に
流行した疫病にその家族はならず助かったという伝説がありま
す。須佐之男命の化身が鍾馗大神と名乗り、民の命をうばおう
とする大疫神と戦い、左手の茅の輪で捕らえ、右手の剣で見事
に退治します。

伊賀和志神楽団プロフィール

由来

伊賀和志神楽団(いかわしかぐらだん)は、広島県の北部「江の川」沿い「三次市作木町伊賀和志」を拠点に活動しています。

伊賀和志神楽は、出雲を起源とする「出雲神楽」が石見地方に伝わり、「石見神楽」として発展し、陰陽を結ぶ唯一の交通手段である「江の川」により、民俗習慣行事や芸能等とともに備後地方に伝わったものといわれています。

原型は、石見八調子神楽の阿須那手と呼ばれています。

神楽団としての活動は、江戸時代の終わりごろからと推定されますが、地元の伊賀和志天満宮の秋の大祭をはじめ、各地の氏神祭や祈願祭など神前において盛大に神楽が奉納され、代々、土地の有志によって伝承されて、今日に至っています。

三次市重要無形文化財(神降し・天の岩戸開き)や広島県無形民俗文化財(鈴合せ)の指定を受けるほか、数々の表彰歴があります。

主な活動

地元の伊賀和志天満宮の秋の大祭や、各地の氏神祭、神楽大会、イベント等の行事に、コロナ前は年間約30回にのぼります。

昭和52年から郷土芸能伝承活動として、作木中学校で「神楽」の指導を続けながら、平成18年9月1日には、インドネシア・バリ島のナサントラカルチャーパレードに招待され、海外公演を行い、国際交流友好の大役を果たしました。

また、令和5年2月19日には、東京NHKホールで行われた、「地域伝統芸能まつり」に出演し、「塵倫」を舞わせていただきました。

平成28年9月から、「伊賀和志子供神楽」を結成して毎週の練習を頑張っており、地元の祭りやイベントなどに参加して発表しています。

